

【論理的思考／批判的思考を学ぶ】

皆さん、「論理的思考」と聞いて何を思い浮かべますか？「論理」って何でしょうか？
「批判的思考」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか？もしかすると、「人を非難したり、けなしたりする考え方」と思う人がいるかも知れません…

違うのです！

実は、この「論理的思考」と「批判的思考」は一般的に日本人に欠けがちな力でもあり、受験、大学、就職、家庭生活、友達づきあい、すべてにおいて「めっちゃ！」重要な力なのです。

IMでは、通常の授業ではカバーされないことも含め、皆さんに色々な力を1年間で身につけていただきますが、その中でも、この「論理的思考」と「批判的思考」は、キーワードになります。

これから**4つの問**を中心に、「論理的思考」と「批判的思考」を学んでいきましょう！

問1 何で論理的思考・批判的思考を学ぶの？

- ・人と話すのが苦手（ ）
 - ・大勢の人の前で話すのが苦手（ ）
 - ・自分は引っ込み思案だと思っている（ ）
 - ・文章を書くのが苦手（ ）
 - ・教科書の説明を読んだり問題文を理解するのが苦手（ ）
- の数合計（ ）

→では、論理的思考・批判的思考って何？

論理的思考とは「筋道が適切になるように考え、伝えること」

批判的思考とは「筋道が適切でないところを考え、指摘すること」

↓

日本に限らず、世界中の人が「言葉」を使っているのは皆さんご存知ですよね？言葉を使って読む・聴く・書く・話すというコミュニケーションを取ることにになりますね。これらの作業には、日本語であっても英語であっても、人間である限り、「論理」というルールが用いられているのです。このルールが分かっていると、言葉を使って思いを伝え合うことが難しくなります。なぜなら、「論理」とは「考えの筋道」であり、筋道がこんがらがっているメッセージは理解するのに時間がかかるからです。大抵、皆さんが「この人の言っていることよう分からへんわ」と思うときは、その人の言っていることの「筋道が適切でない」のです。

↓

反対の言い方をすれば、「論理」＝「考えの筋道」さえ整理できていれば、人が言ったこと・書いたことの意味も早まるし、人の発言・文章の矛盾点も見えるようになります。そうなれば、言葉を使って読む・聴く・書く・話すことに自信が持てるようになり、人とコミュニケーションを取るのが楽しくなります。このように、「論理的な思考力」を用いて、相手の言っている不適切な筋道を指摘しつつ、「こういうアイデア／考え方はどう？」と議論を進めていくのが「批判的思考」の考え方です。是非皆さんに理解していただきたいのは、批判的思考と言っても、人の言うことにケチをつけたり、あげ足を取るためのものではないということです。相手の矛盾点を理解し、「ではこうしましょう」という建設的な案を出すためのものが、「批判的思考」なのです。ビシビシ建設的な「批判」をしましょう。

↓

では、具体例を見ながら、「論理」のトレーニングをして行きましょう！

問2 具体的に「論理」ってどういうこと？**答2 理由と結論（意見）との因果関係に飛躍がないこと**

こうして言葉だけで言われてももうひとつピンと来ないかも知れませんね。
実際に「論理的でない」例を見て、何が「論理的」か、を考えて行きましょう。

以下の例文のどこがおかしいか分かりますか？

① 「土砂降りの雨が降った」→だから→「校庭で運動会を行った」

【注意パターン①：接続詞や助詞が適切でないと論理的でなくなる！】

(a) 「私は金曜日だけ図書館に行くのです」

→ 「なるほど。では貴方は水曜日には図書館に行かないのですね」

(b) 「私は金曜日だけ図書館に行くのです」

→ 「なるほど。では貴方は毎週金曜日に図書館に行かれていますね」

(c) 「私は金曜日には図書館に行くのです」

→ 「なるほど。では貴方は毎週金曜日に図書館に行かれていますね」

(d) 「私は金曜日には図書館に行くのです」

→ 「なるほど。では貴方は火曜日には図書館に行かないのですね」

(e) 「私は岸和田市在住の17歳です」

→ 「そうですか。ここは岸和田市在住の人か、または18歳以上の方が入館できます。
従って貴方は入館できます」

(f) 「私は岸和田市在住の17歳です」

→ 「そうですか。ここは岸和田市在住の人で、かつ18歳以上の方が入館できます。
従って貴方は入館できます」

(g) 「私は岸和田市在住の17歳です」

→ 「そうですか。ここは岸和田市在住でない人か、または18歳以上でない人が入館できます。従って貴方は入館できます」

(h) 「私は岸和田市在住の17歳です」

→ 「そうですか。ここは岸和田市在住でない人で、かつ18歳以上でない人が入館できます。従って貴方は入館できます」

次はどうでしょう？

②「駅前の商店街を歩いた」→だから→「お母さんに花を買っていこう」

これはどうですか？なんとなく分かるような、分からないような・・・①と違って、「だから」を「しかしながら」と置き換えても余計意味が分からなくなりますよね。何が論理的でない（考えの筋道が適切でない）のでしょうか？・・・そうです。「駅前の商店街を歩いた」と「お母さんに花を買っていこうと思うこと」との間に飛躍があるのです。もし、「商店街でたまたま花屋をみかけ、しかも、その日が母の日であった」ことを説明していればどうでしょう？聞いている方は「なるほど」と思いませんか。つまり、「駅前の商店街を歩いた」→「商店街でたまたま花屋をみかけ、しかもその日は母の日だった」→だから→「お母さんに花を買っていこう」と説明すれば問題ないわけです。

注意！！！！

【注意パターン②：理由を十分に説明しないと論理的でなくなる！】

では次の例はどうですか？

論理性があるか、ないか、①と同じ方法で議論してみてください。

ポイントは、「なぜ」「どうして」といちいち理由に疑問を抱くことです。

「今日は雨が降っている」→「晩ご飯にうなぎを食べて、ドラマを見よう」

この2文が適切につながるような文を間に挟んでみましょう。

こんな場合はどうでしょう？

まずは答を見ずに、論理的な文章かどうかを①と同じ要領で議論してください。

③ (a) 「サッカー部が自主的に早朝練習するようになったらしいよ」

→ 「なるほど。生徒レベルでのモチベーションという部分でカミングアウトしてきたんだね」

(b) 「僕は中学でバイオリンを演奏していました」

→ 「そうですか。それなら貴方はブラスバンド部がぴったりだ」

(c) 「クラスの代表者である君の報告によれば、文化祭で大食い競争をしたいというのだね。担任の私は大食い競争は反対だ。もう一度フィードバックしてクラスで議論したまえ」

上記の3つの文章の「論理的でない」（結論への筋道が適切でない）理由、分かりましたか？

答：そうです。一見理解しているような外来語の理解が間違っているがために、発言に論理性が損なわれているのです。つまり使っている本人が意味を確かめずに感覚的に使っている言葉に落とし穴があるのです。

では、(a)～(c)の文章を適切な表現に直してみましょう。

注意！！！！

【注意パターン③：単語の意味を間違えて使うと論理的でなくなる！】

こんな場合はどうでしょう？

④「彼はここ1か月で3キロも体重を落としたいよ」

→「そうですか。彼はボクサーで、1日2食しか食べていないに違いない」

これは皆さん分かりますね。この会話は「結論（3キロ体重を落とした）」→「理由（ボクサーである＋1日2食しか食べていないから）」という順序で構成されていますが、その他にも全く別の理由がありますよね。1日3回食べても、各回の量を減らせば体重は落ちますし、食べる量は一定でも運動をすれば体重は落ちます。また、ボクサーでなく、ファッションモデルや役者の役作りかも知れませんし、一般の人が単にダイエットをしたからなのか、病気であまり食が進まなかったのかも知れません。このように断定した理由を述べるときは、他に相反する理由がないことが必要です。

注意！！！！

【注意パターン④：別の理由がありうるのに、ひとつの理由に断定すると論理的でなくなる！】

Q では、次の文章に論理性はあるでしょうか？いつもの要領で議論してください。

(a)「あの生徒は、朝食を食べていないから学力が低いに決まっている」

参考：注意パターン④

(b)「朝食を食べてない生徒は学力が低いと思う」

参考：注意パターン②

(c)「朝食を食べていないことがあの生徒の学力を落としている一因となっていると思う」

(d)「自動車と電車は同じようなものだよ」

→「何を言っているのだ。両者は全く別物だよ」

次の場合はどうでしょう？

⑤ 「哺乳類は母乳で子を育てる」

→ 「ワニは哺乳類である」

→ 「よってワニは母乳で子を育てる」

これは、AはBである、BはCである、よってAはCであるという論理を問う問題です。確かに、「哺乳類は母乳で子を育てる」という事実（前提）と、「ワニは哺乳類である」という事実（前提）が正しいのであれば、「ワニは母乳で子を育てる」と結論になります。しかし、皆さんご存知のとおり、「ワニは哺乳類ではありません」よね。つまり…

注意！！！！

【注意パターン⑤：そもそもの前提事実（理由）が間違っていると論理的でなくなる！】

では、この問題はどうでしょう？論理的ですか、論理的ではないですか？いつもの要領で議論してみてください。

「青果店とは果物を売る店のことをいう」

→ 「スイカは果物ではない」

→ 「よって、青果店でスイカを売っていることはない」

実は、3つの文のどれを取っても不適切と言えるのですが、気づいたでしょうか？

- ・ たしかに青果店は果物を売る店ですが、野菜に分類される物も売っています。（注意パターン⑤）
- ・ 「果物」の意味について考えましょう。たしかにスイカは野菜に分類されています。しかし「果物」を『青果店で売っている物』と（多少強引に）定義すれば、「スイカも（その多少強引な定義では）果物である」ことになりえます。
- ・ 「青果店とは果物を売る店のことをいう」「スイカは果物ではない」この2つの文章から導かれるのは、「だからといって青果店でスイカを売っていないとは断定できない」「青果店でスイカが売られているかは不明である」「青果店でスイカを売っていないことが予想される」という帰結だけです。「青果店でスイカを売っていることはない」と言い切ることはできません。（注意パターン④）

以上、論理的でなくなる代表的な落とし穴（注意パターン）を学んできました。
ここでもう一度整理しておきましょう。

注意パターン①：接続詞や助詞が適切でないと論理的でなくなる！

注意パターン②：理由を十分に説明しないと論理的でなくなる！

注意パターン③：単語の意味を間違っ使用すると論理的でなくなる！

注意パターン④：別の理由がありうるのに、ひとつの理由に断定すると論理的でなくなる！

注意パターン⑤：そもそもの前提事実（理由）が間違っていると論理的でなくなる！

皆さんが、受験（小論文・面接に限定されません）、定期考査、レポート作成、家族との話し合い、クラブの部員や友人との付き合い、大学や就職先において、「なぜか上手くメッセージが伝わらない」「他人に理解されない」「成績が伸びない」という場合、ひょっとしたら、皆さんの発言・文章が、上記の5つのパターンのうちのどれかに引っかかっており、論理性を欠いているからなのかも知れません。

また、相手の発言・文章が分かりにくい場合、上記の5つのパターンのうちのいずれかが原因になっているかも知れません。そのような場合、落ち着いて、かつ友好的に、どうして論理性がないのかを説明（批判的思考）すれば、相手からより分かりやすい説明が得られ、より上手なコミュニケーションが取れるようになることでしょう。